

第80期
中間報告書

平成21年4月1日～平成21年9月30日

FINE & HIGH QUALITY

【 経営理念 】

私たちは、お客様にとって価値のある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献します。

私たちは、情報を重視し、世界の変化にすばやく適応するため、技術・知識・行動の革新に挑戦し続けます。

私たちは、利益ある発展と、創造性豊かでいきいきとした企業風土の確立を目指します。

当社の経営方針について

当社はステンレス鋼線ならびに金属繊維(ナスロン)を主力製品とし、長年に亘り培ってきた技術力と新しい技術分野への挑戦により、お客様にとって価値ある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献することを経営の基本理念といたしております。

また、株主の皆様ならびにお取引先など、内外の関係先からの信頼と期待に応えるため、常に世の中の変化に迅速に対応できる柔軟な経営体制の構築を通じて、安定した収益基盤の維持・拡大を図るべく事業活動を展開してまいります。

株主の皆様へ

日本精線は、ステンレス鋼線のトップメーカーとして、次世代素材、技術開発をリードしつづけています。

株主の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、当社第80期中間期(第2四半期累計期間、平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)の事業の概況につきましてご報告申し上げます。

平成21年12月



代表取締役社長

近藤 龍夫

当中間期(第2四半期連結累計期間)におけるわが国経済は、在庫調整の進展や政府の経済対策の効果などによる需要の回復に伴い、企業の生産活動に改善の動きは見られましたが、本格的な景気回復には至らない状況で推移しました。

ステンレス鋼線業界におきましても、自動車や家電業界の生産回復や顧客の在庫積み増しなどにより需要は緩やかに回復傾向となりましたが、なお前年同期の6~7割程度にとどまり、厳しい経営環境が続きました。

このような状況のもと、当社グループでは収益改善のために、(1)販売活動の一層の強化や、(2)受注減に対応したコストの削減策—具体的には、①雇用調整による人件費の削減、②計画休転による工場部門の操業損の回避、③諸経費の一層の削減などの「緊急収益改善策」に引き続き取り組んでまいりましたが、環境悪化の影響を免れることができず、当中間期の売上高は98億23百万円(前年同期比52.7%減)と大幅減収となりました。

損益につきまして、「緊急収益改善策」により相当のコスト低減が達成できましたものの、売上高の低迷による粗利の減少や工場操業度の悪化、加えて原材料価格の低下によるたな卸

資産の切り下げや収益性低下による評価損の計上などの減益要因が嵩んだ結果、当中間期は営業損失7億32百万円、経常損失6億8百万円、四半期純損失3億94百万円となりました。

なお、中間配当につきましては、誠に遺憾ながら、既に公表しておりますとお見送りとさせていただきます。

次に部門別の概要についてご報告申しあげます。

ステンレス鋼線部門

販売数量は、7月以降急回復しましたものの前年同期比約6割にとどまったことに加え、原材料価格の下落に伴う販売価格の引き下げなどにより、売上高は前年同期比53.4%減の86億31百万円となりました。

主力のばね用材は、在庫調整が進展し、自動車・家電製品向けなどは回復しましたが、本格的な需要増には至らず、新製品(高強度や高耐食・超耐熱ばね用材など)も後半には自動車向けなどに回復基調となりましたが低調で、薄型テレビ製造プロセス向けなどの極細線も低迷しました。

また、住宅建設の不調や円高による安価な海外材の影響もあり、鋳螺用材や金網用材も大幅な減少となりました。独自製品は、ボールペンチップ用材は比較的堅調でしたが、自動車向けの耐熱ボルト用材は減少しました。

また、海外現地法人であるTHAI SEISEN CO., LTD. につきましても、需要の低迷や原材料価格の下落に伴う販売価格の引き下げにより、総じて低調な結果となりました。

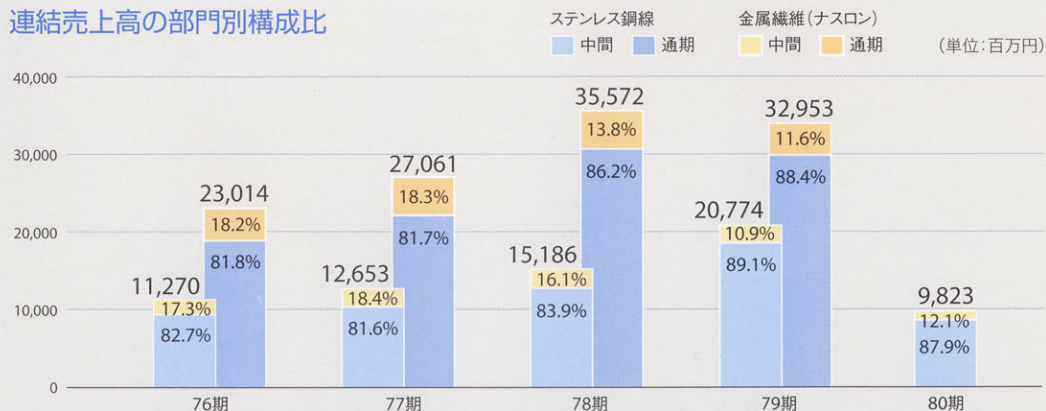
金属繊維(ナスロン)部門

主力のフィルターは、薄型テレビパネルフィルム向けなどの高機能樹脂用や航空機向けの炭素

繊維用などが、主要顧客の設備投資の凍結や延期の影響を受け低迷しました。また、自動車ガラス製造用織布をはじめ、その他産業資材用も低水準にとどまり、超精密ガスフィルター(ナスクリン)は、半導体製造装置メーカー向けが回復基調となりましたが、液晶や太陽光パネル業界向けは大幅に減少しました。また、海外現地法人である耐素龍精密濾機(常熟)有限公司は、製品特色である高機能・高品質性を現地需要家に浸透できなかったことなどにより低調な推移となりました。

これらの結果、金属繊維部門の売上高は11億92百万円(前年同期比47.3%減)となりました。

連結売上高の部門別構成比



(注) 1. 平成19年10月に大同ステンレス株式会社を吸収合併したことにより、第78期通期以降、ステンレス鋼線部門の売上高比率が大きく上昇しております。
2. 部門区分につき、従来の「その他加工品」は第79期より「ステンレス鋼線」に含めて集計することとしたため、第78期以前も同様の方法にて集計しております。

今後の見通しといたしましては、当社グループを取り巻く経営環境は、自動車やデジタル家電業界向けの需要は回復基調にあります。住宅関連向けは引き続き低調に推移するなど回復度合に跛行性がみられ、また、円高や経済対策の反動による下振れ懸念、さらには一部汎用品における中国・韓国などのステンレス鋼線メーカーとの競争激化など、依然楽観できない状況にあります。

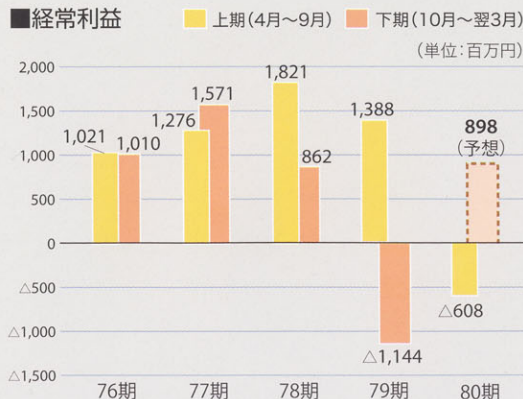
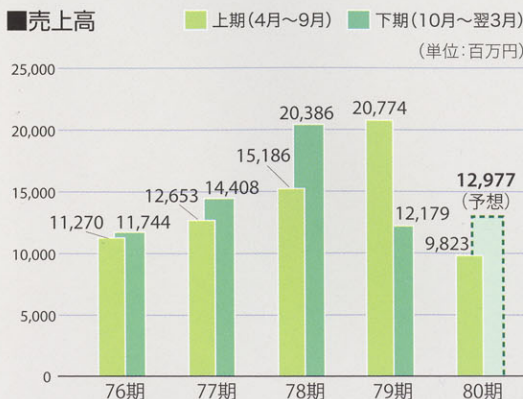
こうした中で、当社グループは斯かる経営環境に対応すべく、既述の「緊急収益改善策」の継続に加えて、より筋肉質な企業基盤の強化を目指し、「第11次中期計画」を策定中であります。その基本理念は『さらなる企業価値の向上』で

あり、経営目標として、最終年度の平成24年3月期にはROA10%の達成を目標としております。

具体的には、ステンレス鋼線部門では、生産面では海外工場の活性化とともに国内外5工場による最適生産体制の構築、販売面ではばね用材や極細線をはじめとする高機能・高付加価値製品並びにボールペンチップ用材など独自製品の売上高の増加、海外売上高比率の増大、加えて開発面では当社グループの保有する技術力・ノウハウに大同特殊鋼グループの技術力を結集することによる新製品開発の強化や新規事業の確立などを引き続き推進してまいります。

金属繊維部門では、拡大する中国市場をター

業績の推移(連結) : 80期下期は予想数値



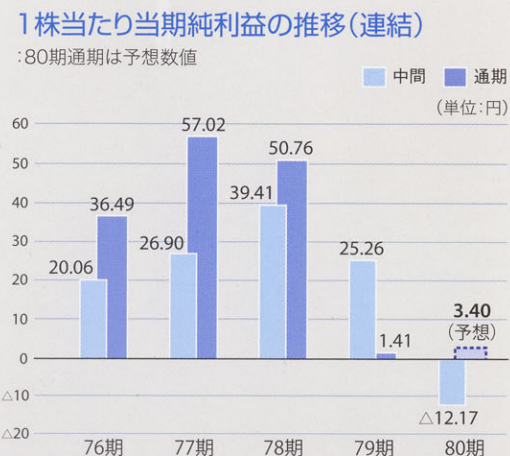
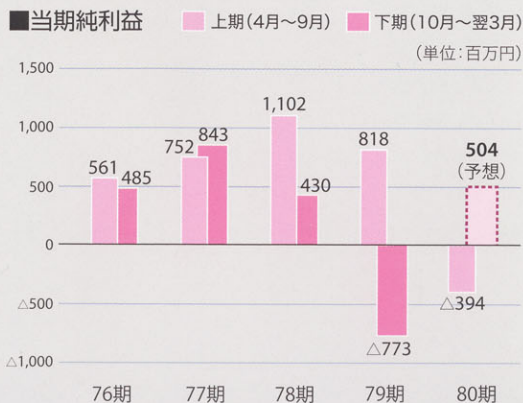
ゲットに設立した生産販売子会社「耐素龍精密濾機(常熟)有限公司」の販売力強化に引き続き注力するとともに、国内でもより高精度化する需要に応えるべく設備投資を計画しております。

さらに、技術力の活用による環境ビジネスへの参入を目指し、天然ガスや都市ガスから高純度の水素を取り出す水素分離膜モジュールの商品化をはじめ、高圧水素環境下で使用可能なばね用ステンレス鋼線やクリーンエネルギー関連製品、医療・水処理向け高機能樹脂用ナスロンフィルターなどの拡充を企図しております。

これらの諸施策を着実に実行し、収益のより一層の改善を図ってまいります。当面は、なお

厳しい経営環境が続くものと想定しており、平成22年3月期の連結通期業績は、売上高228億円(前年同期比30.8%減)、経常利益2億90百万円(同18.4%増)、当期純利益1億10百万円(同140.1%増)を見込んでおります。

株主の皆様におかれましては、何卒、一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



連結決算

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

| 科目 | 期別 | 当第2四半期末 (平成21年9月30日現在) | 前第2四半期末 (平成20年9月30日現在) | 前期末 (平成21年3月31日現在) |
|-------------|----|---------------------------|---------------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | | | |
| 流動資産 | | 13,953 | 23,022 | 15,026 |
| 現金及び預金 | | 3,996 | 4,954 | 3,683 |
| 受取手形及び売掛金 | | 5,242 | 10,992 | 4,902 |
| 商品及び製品 | | 1,266 | 2,138 | 1,882 |
| 仕掛品 | | 1,835 | 2,771 | 1,713 |
| 原材料及び貯蔵品 | | 1,243 | 1,631 | 1,823 |
| その他 | | 368 | 532 | 1,021 |
| 固定資産 | | 12,885 | 12,946 | 12,895 |
| 有形固定資産 | | 9,666 | 9,533 | 9,516 |
| 建物及び構築物 | | 3,217 | 3,284 | 3,227 |
| 機械装置及び運搬具 | | 4,381 | 4,012 | 4,143 |
| 土地 | | 1,819 | 1,870 | 1,820 |
| リース資産 | | 8 | — | 9 |
| 建設仮勘定 | | 46 | 157 | 127 |
| その他 | | 192 | 208 | 187 |
| 無形固定資産 | | 392 | 75 | 266 |
| 投資その他の資産 | | 2,826 | 3,337 | 3,113 |
| 資産合計 | | 26,838 | 35,968 | 27,922 |

| 科目 | 期別 | 当第2四半期末 (平成21年9月30日現在) | 前第2四半期末 (平成20年9月30日現在) | 前期末 (平成21年3月31日現在) |
|--------------|----|---------------------------|---------------------------|-----------------------|
| 負債の部 | | | | |
| 流動負債 | | 4,696 | 13,489 | 5,201 |
| 支払手形及び買掛金 | | 3,100 | 9,828 | 3,361 |
| 短期借入金 | | 740 | 1,712 | 894 |
| 未払法人税等 | | 29 | 626 | 23 |
| 賞与引当金 | | 410 | 550 | 390 |
| その他 | | 416 | 772 | 531 |
| 固定負債 | | 4,654 | 3,367 | 4,834 |
| 長期借入金 | | 1,391 | — | 1,639 |
| 退職給付引当金 | | 3,099 | 3,169 | 2,969 |
| 役員退職慰労引当金 | | 98 | 140 | 159 |
| その他 | | 65 | 58 | 66 |
| 負債合計 | | 9,351 | 16,857 | 10,035 |
| 純資産の部 | | | | |
| 株主資本 | | 17,308 | 18,874 | 17,939 |
| 資本金 | | 5,000 | 5,000 | 5,000 |
| 資本剰余金 | | 5,446 | 5,446 | 5,446 |
| 利益剰余金 | | 6,886 | 8,451 | 7,517 |
| 自己株式 | | △ 24 | △ 23 | △ 23 |
| 評価・換算差額等 | | △ 49 | 236 | △ 111 |
| その他有価証券評価差額金 | | 191 | 257 | 108 |
| 土地再評価差額金 | | 127 | 134 | 124 |
| 為替換算調整勘定 | | △ 368 | △ 154 | △ 345 |
| 少数株主持分 | | 229 | — | 59 |
| 純資産合計 | | 17,487 | 19,111 | 17,886 |
| 負債純資産合計 | | 26,838 | 35,968 | 27,922 |

*財務諸表は以下に基づき作成しております。

- ①当第2四半期累計期間(末)及び前第2四半期累計期間(末)は四半期連結財務諸表規則に基づき、それぞれ作成しております。
- ②当第2四半期累計期間及び前第2四半期累計期間は一部簡便な会計処理を適用しております。
- ③記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

| 科目 | 期別 | 当第2四半期(累計) | 前第2四半期(累計) | 前期 |
|--|----|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| | | (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで) | (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで) | (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで) |
| 売上高 | | 9,823 | 20,774 | 32,953 |
| 売上原価 | | 9,352 | 17,936 | 30,058 |
| 売上総利益 | | 470 | 2,838 | 2,894 |
| 販売費及び一般管理費 | | 1,203 | 1,462 | 2,741 |
| 営業利益又は営業損失(△) | | △ 732 | 1,375 | 153 |
| 営業外収益 | | 150 | 78 | 191 |
| 営業外費用 | | 26 | 66 | 100 |
| 経常利益又は経常損失(△) | | △ 608 | 1,388 | 244 |
| 特別利益 | | 2 | — | 0 |
| 特別損失 | | 27 | 9 | 65 |
| 税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△) 又は税金等調整前当期純利益 | | △ 633 | 1,378 | 179 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 12 | 613 | 44 |
| 法人税等調整額 | | △ 238 | △ 53 | 88 |
| 少数株主損失(△) | | △ 12 | — | — |
| 四半期純利益又は四半期純損失(△)又は当期純利益 | | △ 394 | 818 | 45 |

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

| 科目 | 期別 | 当第2四半期(累計) | 前第2四半期(累計) | 前期 |
|----------------------|----|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| | | (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで) | (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで) | (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで) |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | 1,277 | 1,360 | 306 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | △ 539 | △ 602 | △ 1,473 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | △ 469 | △ 359 | 387 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | | 4 | △ 68 | △ 161 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | | 272 | 330 | △ 940 |
| 現金及び現金同等物期首残高 | | 3,724 | 4,664 | 4,664 |
| 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | | 40 | — | — |
| 現金及び現金同等物四半期末又は期末残高 | | 4,037 | 4,995 | 3,724 |

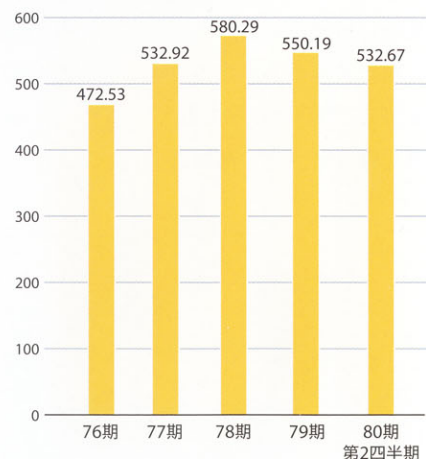
■総資産・純資産(連結)

(単位:百万円)



■1株当たり純資産(連結)

(単位:円)



会社の概況 (平成21年9月30日現在)

会社概要

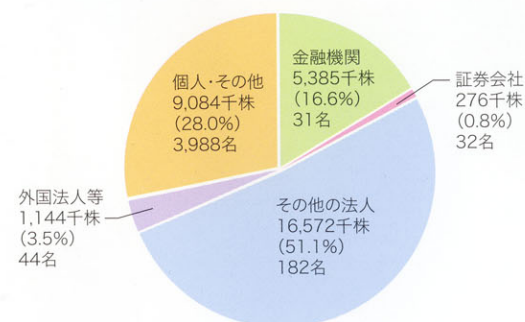
| | |
|------------|---|
| 商号 | 日本精線株式会社 (英文名 NIPPON SEISEN CO., LTD.) |
| 設立 | 昭和26年6月30日 |
| 資本金 | 50億円 |
| 従業員数 | 560名 |
| ホームページアドレス | http://www.n-seisen.co.jp/ |

当社グループの主な営業品目

ステンレス鋼線、ステンレス鋼直棒・異形線、高合金線、チタン線、金属繊維(ナスロン)及びその加工品、金属繊維焼結フィルター、半導体用超精密ガスフィルター、ダイヤモンドダイス、溶接棒、その他金属線

株式の状況

| | |
|-------------|-------------|
| ■発行可能株式総数 | 82,800,000株 |
| ■発行済株式の総数 | 32,461,468株 |
| ■当第2四半期末株主数 | 4,277名 |
| ■所有者別株式分布状況 | |



当社グループの主要な事業所

■当社

| | |
|--------|---|
| 本社 | 大阪市中央区高麗橋四丁目1番1号(興銀ビル) |
| 支店・営業所 | 大阪(大阪市中央区)・東京(東京都中央区) 名古屋(名古屋市中区)・九州(福岡市中央区) |
| 工場 | 枚方(大阪府枚方市)・東大阪(大阪府東大阪市) 名古屋(名古屋港区) |

■主な子会社

| 会社名 | 出資比率 | 所在地 |
|---------------------------|------|--------------|
| THAI SEISEN CO., LTD. (*) | 95% | タイ国サムットプラカーン |
| 耐素龍精密濾機(常熟)有限公司(*) | 70% | 中国江蘇省常熟 |
| 大同不銹鋼(大連)有限公司 | 74% | 中国遼寧省大連 |

(*)は連結対象子会社

■大株主

| 株主名 | 持株数 | 出資比率 |
|----------------------------|----------------------|--------|
| 大同特殊鋼株式会社 | 13,103 ^{千株} | 40.44% |
| 日本冶金工業株式会社 | 1,688 | 5.20 |
| 株式会社みずほコーポレート銀行 | 1,086 | 3.35 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 628 | 1.93 |
| 野村信託銀行株式会社(投信口) | 554 | 1.70 |
| 前尾和男 | 547 | 1.68 |
| 特殊発條興業株式会社 | 532 | 1.64 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4) | 408 | 1.25 |
| 株式会社池田銀行 | 401 | 1.23 |
| 資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口) | 382 | 1.17 |

(注)出資比率は自己株式(60,959株)を控除して計算しております。

役員

取締役及び監査役

(*印の取締役は執行役員を兼務しております)

| | |
|---------|------|
| 代表取締役社長 | 近藤龍夫 |
| *取締役 | 藤平芳昭 |
| *取締役 | 南整二 |
| *取締役 | 上田啓介 |
| *取締役 | 田口義國 |
| *取締役 | 衣川公尊 |
| 取締役 | 安田保馬 |
| 常勤監査役 | 西川博文 |
| 常勤監査役 | 但馬進 |
| 監査役 | 橋爪優 |
| 監査役 | 岡田誠 |

執行役員

| | |
|----------|-------|
| 上席常務執行役員 | 藤平芳昭 |
| 上席常務執行役員 | 南整二 |
| 常務執行役員 | 上田啓介 |
| 常務執行役員 | 田口義國 |
| 常務執行役員 | 衣川公尊 |
| 常務執行役員 | 岸木雅彦 |
| 常務執行役員 | 石部英臣 |
| 常務執行役員 | 宮城修司 |
| 執行役員 | 菊田真佐人 |
| 執行役員 | 児玉勝 |
| 執行役員 | 多賀正宏 |
| 執行役員 | 中川準市 |

株主メモ

| | |
|---------------------|--|
| 決算期日 | 毎年3月31日 |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 基準日 | 定時株主総会 3月31日 その他必要のあるときは、取締役会で決議し、 あらかじめ公告する一定の日 |
| 剰余金配当の基準日 | 期末 毎年3月31日 中間 毎年9月30日 |
| 株主名簿管理人 | 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 |
| 同事務取扱場所 | 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 |
| 公告掲載方法 | 日本経済新聞に掲載 |
| 証券コード | 5659 |
| 郵便物送付先 電話お問い合わせ先 | 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 |
| | ●電話 0120-288-324 (フリーダイヤル) |
| | ●インターネット http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/ |

NIPPON SEISEN CO., LTD.

